

開設70周年記念熊本競輪 注目選手の横顔



長島 大介

久留米は3年前の記念で横山尚則を利して記念初Vを決めた思い出バンク。メンバーに応じて自力と追い込みを使い分けてるが、中途半端に成るのを嫌い、練習に打ち込んでるのが最近の成績。自力でも1周以上は持つパワーで優出。



芦澤 辰弘

兄大輔(90期)の後を追って、ド素人から自転車に挑戦。これが合ってたのか、95期に合格するやルーチャンVに輝き、其の後はS級1班に定着。今年は6月和歌山高松宮記念杯でGI初優出を筆頭に、8月川崎FIの優勝と順調。関東の核と成り大暴れ。



松谷 秀幸

今年は2月豊橋全日本選抜からスタートしたプロ野球出身の逸材は、努力する事しか知らず、2場所目の奈良記念は同級生の平原康多の後にける幸運を物にして自身2度目の記念V。直近も順調で、8月小倉は野口裕史の番手で優勝は実力の証明。



佐藤 友和

妥協しない自力勝負でGI寛仁親王牌・全日本選抜を獲り、GIIはサマーナイト・東西王座は2度Vもだが、12年前は久留米共同杯Vもあり、輪史に名を残す偉大なレーサー。現在は弟子を多く育て乍ら、「競輪」を楽しんでるが、主戦法は変わらず自力。



中本 匠栄

ここ迄の選手人生は決して順調ではなかったが、落車で選手生命を絶たれる大怪我を2度も3度も経験する度に脚力アップする不思議なレーサー。オールスターをまとめた事で、今回の地元記念は2年前同様、決勝進出に照準を絞ってる。



松川 高大

九州学院高時代から「熊本に松川あり」と、その名を全国に轟かせた期待の星も、何時の間にか30の大台越え。捲りの威力は円熟味を増し、記念・特別に欠かせない存在に。昨年は地元記念と呼ばれなかったのに、2年間の想いを初日からぶつける。



伏見 俊昭

グランプリ2度の優勝に、日本選手権、そしてオールスターと、賞金が高い大会ばかりを獲ってるだけでなく、競技ではアテネ五輪チームスプリント銀メダルの栄光は色褪せる事は無い輪史に名を残す超スター。その力は衰える事なく今尚健在。



湊 聖二

久留米には縁があるのか、記念には毎年呼ばれ、熊本記念も常連。それもあってか、こゝを走れば不思議な力が湧くのか、ブロックセブンのVもだが、7月のFIナイターは吉本哲郎の突っ張り先行を利し、井上昌己等に優勝してる大得意バンク。



坂井 洋

自転車競技の名門、作新学院高に自転車留学して、いきなり頭角を現わし、日大で更に磨いて115期としてプロデビュー。在校1位の勲章は伊達でなく、トントン拍子でS級に昇格するや、3度の優勝もだが、特別・記念で活躍してる大ホープ。



森山 智徳

先日の大雨で氾濫した球磨川でカヌー競技をスタートさせ、鹿屋体育大に進んだスポーツマンは、早くからそのパワーは中川誠一郎に遜色無いと評価されてたのが、練習方法を変えたのが大当たりで突然のブレイク。地元記念で狙うは記念初優出。



野口 裕史

ハンマー投げの第一人者、室伏広治の壁を破れず、それでも努力を重ねた北海道で生まれ育った道産子は、室伏が引退するや日本一に輝いたのを手土産に輪界入り。妻子を養うためならばと、練習しかやらないのが、2周逃げても平気な豪脚。



渡邊 晴智

12年前に静岡ダービーを山崎芳仁の番手で獲った勢いで、びわこの高松宮記念杯も2冠に輝いた小さな巨人は弟子を育て乍ら練習してるのがこの得点。今回は長男(雅也)が最終日のルーキーレースを走る事で、気合は最高。狙っているのは決勝進出。

熊本記念出場予定選手 着度数・事故点・勝率・連対率・賞金と短評

級班	選手名	年齢	府県	期別	1着	2着	3着	着外	失格	勝率	連対率	賞金(万円)	短評
SS	中川誠一郎	41	熊本	85	3	1	1	10	0	0.200	0.266	1,888	熊本記念は気合で走る天才スプリンター。4回目の地元記念Vへ慕地(まっしぐら)。
SS	郡司 浩平	30	神奈	99	6	2	1	5	1	0.400	0.533	3,557	実力・実績、そして立ち振る舞いと非の打ち処が無い、当代一の模範レーサー。
SS	清水 裕友	25	山口	105	4	3	1	5	0	0.307	0.538	6,467	スーパーカー(ランボルギーニ)で颯爽と登場する若者は、GP3年連続出場は立派。
S1	神山雄一郎	52	栃木	61	0	2	0	5	0	0.000	0.285	837	特別(GI)16回の優勝に生涯賞金高は他の追随を許さぬ超スターも52歳の年齢。
S1	三宅 伸	51	岡山	64	0	0	2	11	0	0.000	0.000	825	岡山輪界を背負って頑張ってきた功労者。脚力の衰えはテクニックと経験でカバー。
S1	澤田 義和	47	兵庫	69	0	1	0	2	0	0.000	0.333	1,041	長い間支部長職を兼任したが、やっと解放された事でもう一花咲かせる気迫。
S1	渡邊 晴智	47	静岡	73	2	3	0	8	0	0.153	0.384	1,187	富士山グループの総師として後進の指導する傍ら、自らも鍛えてるのがこの成績。
S1	伏見 俊昭	44	福島	75	4	2	2	7	0	0.250	0.375	1,315	煌びやかな過去の栄光をかなぐり捨てて努力を重ねているのが最近の好成績。
S1	山内 卓也	43	愛知	77	0	3	3	7	0	0.000	0.214	893	展開を読む力は中部輪界一だが、その能力を活かすには脚力アップは不可欠。
S1	土屋 裕二	44	静岡	81	1	2	2	8	0	0.076	0.230	663	昨年は落車で背骨圧迫骨折の重傷を負ったが、不屈の闘志で治し立ち直りは顕著。
S1	合志 正臣	43	熊本	81	0	1	2	5	0	0.000	0.125	750	14年前の全日本選抜(平)共同通信社杯(岐阜)の優勝は、褪せる事無い立派な勲章。
S1	佐々木雄一	40	福島	83	2	3	1	4	0	0.200	0.500	1,698	独自の練習方法で脚力アップに成功した遅咲きの星。堂々の優勝候補。
S1	湊 聖二	43	徳島	86	2	4	1	8	0	0.133	0.400	1,539	自ら「湊組」を立ち上げて、来る者拒まずで、後進を育てる事が力に成ってる実力者。
S1	佐藤 友和	37	岩手	88	1	2	0	6	0	0.111	0.333	1,346	久留米は冬期移動で6年近く住み、練習してた事で、気持はホームの自力型。
S1	南 修二	39	大阪	88	4	1	1	6	0	0.285	0.357	1,397	後輩の稲川翔・古性優作に多大な影響を与えた真のファイター。男は黙っての見本。
S1	内藤 秀久	38	神奈	89	1	3	1	1	0	0.142	0.571	2,140	この頑張りとは全て努力と根性が成せる業。友人受けするプレーで魅了する。
S1	橋本 強	35	愛媛	89	3	2	2	5	1	0.214	0.357	920	強烈な個性で今や愛媛輪界のトップに立つ、狙って悔いなしのプロレーサー。
S1	山田 英明	37	佐賀	89	8	4	2	3	0	0.470	0.705	3,620	初めてのグランプリ出場に執念を燃やす佐賀No.1から九州一に成長したスター。
S1	松岡 貴久	36	熊本	90	1	7	3	5	0	0.058	0.470	1,455	自力型と見られるのを嫌い、追い込み型を定着させる事にした熊本輪界の雄。
S1	柴崎 淳	34	三重	91	6	1	1	6	0	0.428	0.500	1,495	能力の高さは兄弟子、浅井康太以上なのに好調子を維持する事が出来ないのは課題。
S1	北村 信明	34	徳島	93	0	0	0	3	0	0.000	0.000	631	金網に激突する大転倒で半年近く休んだが、不屈の闘志で復活したのは成長。
S1	松川 高大	31	熊本	94	3	1	2	9	0	0.200	0.266	1,384	捲りのイメージを払拭せんと、ここに来て積極的に攻める事にしたのは成長。
S1	芦澤 辰弘	32	茨城	95	1	3	0	6	0	0.100	0.400	1,647	目立たないが決める処はキッチリが持ち味、今回もこっそり決勝に乗ってる。
S1	長島 大介	31	栃木	96	3	2	3	5	0	0.230	0.384	1,275	久留米は記念優勝がある生涯忘れられない思い出バンク。夢ももう一度を狙ってる。